

平成28年度国立大雪青少年交流の家第2回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日 時：平成28年11月29日（火）14：00～15：00

場 所：国立大雪青少年交流の家 多目的研修室

運営委員出席者：大島部会長、吉川委員（浜田委員代理）、尾中委員（佐藤委員代理）
目黒委員、石田委員、三浦委員（飯塚委員代理）

計6名

欠席者：村上委員

計1名

大雪青少年交流の家

出席者：阿部所長、久保企画指導専門職、村澤企画指導専門職、
是安企画指導専門職、国枝企画指導専門職

計5名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間、資料確認、欠席委員の報告

○以下部会長による進行

【議題1について】

○部会長

本日の中身は大きく二つ。一つは、今年度の事業の中間報告。二つ目は、事業の成果目標に対しての評価である。それでは、事業についての中間報告をしてほしい。

●事務局

- ・教育事業は全部で11。そのうち、4月から11月までに実施したそのうち8つが終了。リレーションシップ事業は4つ中、3つが終了。50周年記念事業については、5つの事業全てを終了している。
- ・50周年記念事業「北海道青年団体協議会青年大会」は、91名が4種目の競技に参加。来年度も、大雪を会場に実施を予定している。
- ・50周年記念事業「全道高齢者大学移動学園祭」は、10町村から、泊と日帰りを合わせて179名の参加者が作品発表、芸能発表を行い、パークゴルフ、丘の町撮影会、自然観察などの活動・学習を行った。

- ・交流の家で毎年開催している「ゆーすフェスタ」を体験活動の祭典の場とし、その中で職業高校の教育成果の発表・交流の場を設定し、青少年教育を推進する事業とした。当日は、4校の生徒が農作物や加工品の販売、レストランとの共同でカレーライスの提供を行った。農業高校同士の交流や、成果物の販売も好調で、ゆーすフェスタの成功にも大きく寄与し、高校生の自信にもつながった。
- ・「子供のための火山防災フォーラム」では、32人の小学生が様々な実験や見学をとおして、十勝岳をより理解し、身近に感じることで防災についての意識を高めていくことができた。また、参加者それぞれが、学校で防災のリーダーとして活躍できる知識を学んだ。
- ・「体験の風をおこそう全道フォーラム」は、道内の青少年142名に様々な体験活動を提供したダイナミックな事業となった。参加者のみならず、スタッフやボランティアにも様々な学びを与える場となった。

○部会長

よく、これだけの事業をしたものだと感心した。委員の皆さんから質問や感想などあれば伺いたい。私からは、「全道高齢者大学移動学園祭」とは、どんな学園祭だったのか伺いたい。

●事務局

普段、各市町村で高齢者大学、高齢者学級などで活動をされているところに、1年前から職員が広報にまわって、発表の場としてどうかと声をかけた。10町村ほどはご参加いただけるという感触があったので、実施をした。この中の委員にも参加をいただいている。また、食堂の協力もいただいて、参加者同士が楽しく交流していただいた。

○部会長

主に管内の市町村に呼びかけたのか。

●事務局

その通り。全道に呼びかけたが、距離が遠いこともあり、まずは、地元で考えた。普段は、町内で発表するだけの機会しかないという方がほとんどなので、他の大学生に見てもらふことと、他の学校がどんな運営をしているかを交流することができたと思う。

○部会長

続いて、「4月から11月までの事業報告」について説明願いたい。

●事務局

- ・企業や民間団体各機関などとの連携は、ほぼどの事業でも行われており、「新しい公共」を意識した事業運営となっている。「青少年教育スキルアップセミナー」では、青少年教育施設職員に求められる資質・能力を高める目的があり、機構本部職員や、市町村教育委員会、道立図書館、北海道教育委員会等の職員を講師に迎えている。
- ・教育事業の募集定員については、「体験の風キャンプ」を除き充足しているが、これは在園児が減少した中、参加を希望制にしたことで定員を割っている。
- ・満足度においても、満足と答えた事業が80%を越えているのは2事業だが、やや満足の数値を加えて満足とすると、全ての教育事業は80%を越える。今後は、満足のみで80%を越えるように意識しなければならないと考えている。
- ・参加者確保のために、募集開始を5週間前から行うことを目標にしてきたが、2つの事業で達成できなかった。
- ・企画段階から関係機関・団体等との検討委員会を実施した事業は、「ワイルドライフキャンプ」と「ユースオブワールド」の2つ。どちらも、企画委員からの意見を事業に反映させることで、事業に広がりが見られた。
- ・リレーションシップ事業を活用した「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進については、「びえい冒険キッズ」「びえいアスリートキッズ」のプログラムに組み込み、参加者の子供や保護者に生活リズムや読書体験、成長期からだづくりなどについて学ぶ場を提供した。
- ・幼児期の遊びを中心とした運動プログラム推進では、機構本部が作成した「36の動き」プログラムを使って、美瑛町と旭川市内の幼稚園や保育園への出前プログラムとして提供した。
- ・「体験の風をおこそう」運動の普及啓発については、今年度も道内全ての市町村からエントリーがあった。
- ・北海道青少年教育施設協議会と連携した研修会の実施については、「青少年教育スキルアップセミナー」と「体験の風をおこそう全道フォーラム」の事業で青少年教育施設職員の参加や協力を得て、職員の資質向上につながられた。
- ・各市町村教育委員会等と連携した体験活動・生活習慣・読書週間定着の取組や事業の実施については、日本PTA全国協議会への支援や体験活動推進委員による釧路町との連携、苫前町との連携、幕別町、池田町、豊頃町、大樹町の4町の図書館との共催事業の実施を進行中。

○部会長

報告について、各委員の感想などを伺いたい。

□委員

「ワイルドライフキャンプ」の企画から参加したが、職員の方々が規則に従った指導をされていて、全体的に1日の流れやリズムが感じられた。子供たちも、それが当たり前の感覚で守っているという印象を受けた。

【議題2について】

○部会長

次に、自己点検評価について説明願いたい。

●事務局

- ・全ての教育事業で募集定員を充足させる」ことについては、先ほど説明した通り「B」という評価をさせていただいた。
- ・「5週間前に実施する」ことについては、2つの事業で実施できなかったため、目標が達成されなかったということから「C」という評価を出した。
- ・「80%以上の評価を得る」が「A」になっているが、「やや満足」を足すと80%以上になるが、「満足」という最高評価のみで80%という意識で見ると、「B」となるため、修正をお願いしたい。それ以外については、目標を達成できたと評価をさせていただいている。

○部会長

議題は全て終了。全体を含めて、感想などがあれば、お願いしたい。

□委員

連携している事業が多くあり、素晴らしい。数もそうだが、5週間前に参加募集をするのもすごい。自分も業務で心がけていきたいと思って聞いていた。

□委員

6月に行われた「登山指導者研修会」について。プログラム内容では火山に対する安全対策、安全な集団登山の仕方と実際になっていたが、例えば、地元の子供たちに「自分たちの山だ」という意識付けや、地元の山を好きになってもらって、将来的に大きくなったときにまた登ってもらえるように、指導者が安全性だけでなく、地元の山の魅力や文化との関連性を教えるという内容を加えてはどうか。

●事務局

登山指導者研修会は、道内各地からの登山の指導者を養成する内容になっている。内容としては、フィールドは富良野岳だったが、富良野岳の植物や、山のつくりを説明していただきながら、参加者が地元に戻ったときに、自分たちのフィールドのよさを伝えられるように、講師の方から話をさせていただいている。

●事務局

メインの講師は北海道山岳連盟の理事である。委員の言う「子供たちに直接」ということでは、美瑛町が大変良い取組をしている。ジオパーク推進委員会を上富良野町と一緒に立ち上げている。大雪も共催で、「子どものための火山防災フォーラム」と「子どもジオサイトツアー」という2つの事業を行って、直接子供たちに山の魅力や火山の危険性だけでなく、恵みなどを学ばせる1泊2日を2回実施した。

○部会長

貴重な意見である。このような指導者養成でできることが広がって、いいものになっていくだろう。若年層が山好きになる仕掛けは必要だと思う。

□委員

今のことと関連することもあると思うが、今年は「子供のための火山防災フォーラム」を行い、望岳台には「防災シェルター」というものを設置した。防災という意味もあるが、丘、丘陵地など、地元の山に恩恵を受けているものがたくさんあることを、子供たちに教えていく機会として、「火山防災フォーラム」は大事である。「郷土学館」でも行っているが、すごい人気である。できれば継続して行っていただき、地元だけでなく広く北海道の子供たちに広めていただければ、ありがたい。

□委員

これだけ、多くの事業を行っていることに敬意を表する。今年の「ゆーすフェスタ」は、水害の関係で来ることができず、残念だった。これからも、子供たちや高齢者などを連れて、もっともっと、交流の家と関わっていきたい。自分たちも今回災害を経験して、災害救助や災害時のボランティア活動なども、交流の家で事業などを組んでいただけると、自分たちの経験も生かせるかもしれない。この立地条件からも、火山を抱えているので、そういったことから、何かを考えていただけるとよいのではないかな。

□委員

自分は、「ワイルドライフキャンプ」に実際に参加させていただいた。地球温暖化などにも森が寄与しているということまで掘り下げてお話をさせていただいた。内容が

難しいのではないかと思っていたが、子供たちは真剣に聞いて、内容的にもよく理解しているようだった。今後も機会があると思うので、その時にまたお話をさせていただきたい。

○部会長

以上で、議題を終了する。

●事務局

貴重な意見に感謝。次回開催は、事務局から改めて案内をさせていただく。

●事務局

(閉会宣言)